

会 議 録

会 議 名 称	令和元年度 第4回登米市総合計画審議会
開 催 日 時	令和2年1月17日(金) 午後1時30分開会 午後3時05分閉会
開 催 場 所	消防防災センター 3階 大会議室
議長(会長)の氏名	公立大学法人宮城大学 教授 徳永 幸之
出席者(委員)の氏名	公立大学法人宮城大学 教授 徳永 幸之【会長】 登米市子ども・子育て会議 会長 鹿野 良子【副会長】 登米市景観形成会議 副会長 寺島 洋子 登米市都市計画審議会 会長 遊佐 正克 登米市男女共同参画審議会 会長 須藤 明美 宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所 所長 斉藤 敬一 登米市中学校長会 大場 正浩 特定非営利活動法人登米市体育協会 会長 佐々木 猛 登米市文化協会 理事長 鈴木 敬一 一般社団法人登米市医師会 副会長 松本 宏 社会福祉法人登米市社会福祉協議会 事務局長 佐々木 栄一 登米市民生委員児童委員協議会 会長 關 嘉基 登米市食生活改善推進員協議会 副会長 千葉 みどり 一般社団法人登米市観光物産協会 会長 猪股 育夫 登米地域商工会連絡協議会 会長 阿部 泰彦 宮城北部流域森林・林業活性化センター登米支部 支部長 芳賀 稔 登米市コミュニティ推進連絡協議会 会長 鈴木 香 以上17人
欠席者(委員)の氏名	みやぎ登米農業協同組合 常務理事 須藤 正美 登米市環境市民会議 菅原 亜希子 公益社団法人とめ青年会議所 理事長 石塚 琢磨 以上3人
事務局職員職氏名	【事務局】 企画部 部長 佐藤 裕之 企画部企画政策課 課長 遠藤 貞 企画部企画政策課 課長補佐兼企画政策係長 伊藤 宏一 企画部企画政策課 企画政策係 主事 佐藤 彩
議 題	【協議事項】 (1) 登米市まち・ひと・しごと創生総合戦略2019年改訂版(案)について (2) 第二次登米市総合計画基本計画の検証(案)並びに見直し(原案)について
会 議 結 果	別添のとおり
会 議 経 過	別添のとおり

会 議 資 料	【資料1】登米市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2019 年改訂版（案） 【資料2】第二次登米市総合計画基本計画の検証（案）並びに見直し（原案）
発言者	発言要旨
【1 開 会】	
事務局	ただいまから、令和元年度第4回登米市総合計画審議会を開会いたします。 なお、本日の審議会において、17番 須藤正美委員、18番 菅原亜希子委員、20番 石塚琢磨委員の3人から欠席の連絡をいただいております。
【2 挨 拶】	
会 長	総合計画においては皆様の議論を踏まえ、より良い地域づくりに結びつけられればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
【3 議 題】	
事務局	それでは、議事に入ります。 議題は、登米市総合計画審議会条例第7条の規定により、会長が議長となり議事の進行を行っていただくことになっておりますので、徳永会長よろしくをお願いいたします。
会 長	はじめに、登米市総合計画審議会条例第7条第2項の規定により、審議会の会議は、委員の半数以上の出席が必要となりますが、本日は17名の委員に出席をいただいておりますので、会議は成立することを確認いたします。 今回の会議録署名人は、6番 齊藤敬一委員、7番 大場正浩委員にお願いする。 【協議事項】 登米市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2019 年改訂版(案)について、事務局からの説明を求める。
事務局	(配布資料1に基づき説明を行う)
会 長	35 ページ、第4節1の(1) 少子化・健康長寿ですが、本文中に少子化対策と「対策」を加えていただきましたが、そうすると見出しについても少子化対策と「対策」を加えたほうがいいのではないかと。
事務局	事務局においても検討いたしました。キーワードとしての見出しになるので、見出しについては「対策」は加えないこととした。ただ、少子化に重点的に取り組むという現況の表現はやはり少子化対策に重点的に取り組むとなるべきだろうということで、文章表現の中で説明したほうが分かりやすいのではないかと内部で検討した。見出しについては、総合戦略のキーワード、いわゆる柱となる部分なので、このままでご理解いただきたい。
委 員	「少子化・健康長寿」この2つに取り組むということであれば、やはり少子化対策と「対策」を加えるべきではないか。市として「少子化」に取り組むことになってしまうのではないかと。
会 長	基となるタイトル自体が「目指すべき将来の方向」という見出しで始まっているので、(1)の見出しについても「対策」と加えたほうがいいのでは

	ないか。
事務局	いただいたご意見はもう一度内部で検討させていただきたい。出来るだけ反映させるような形で検討したい。
会 長	次に 39 ページ以降の重要業績評価指標 (KPI) の中で、目標が R 2 年度と H31 年度と二つ併記されるような形になっているが、逆に分かりづらいような感じがするので、当初目標などに修正してはどうか。 5 ページの計画期間についても、最初から 6 年間だったようにみえてしまい、説明しないとこれだけを見た人には改訂版ということが分からないのではないか。
事務局	記載内容については内部で検討した結果になるが、今回は一年延長ということで、表紙に 2019 年改訂版とあるように、改訂版として出させていただくという前提に立ったほうがいいのではないかとということで、改訂したものとして全体をまとめましたが、記載内容について再度検討させていただきたい。 また、39 ページ以降の KPI の表記方法についても、もう一度検討させていただきたい。
会 長	KPI の表記については、当初目標と記載するか若しくは H31 年度をさらに大括弧で括るか等の記載方法がある。 また、改訂したものとしてまとめたのであれば、延長により改訂したことの経過説明を追記したほうがいいのではないか。
事務局	経過期間ということで追記する方向で、検討させていただきたい。
会 長	表現上の問題ということで、事務局において検討の上、適切に修正してください。
委 員	人口数の捉え方についてですが、合併当初から比べると合併 10 年後の平成 27 年においては 8 % 程度減、現時点においては 11 % 程度減と減少が続いているが、震災以降は自治体ごとにおいても変動がだいぶ激しかった。流入人口についても震災以降の南三陸町からの転入もだいぶ落ち着いてきており、そのあたりも十分に踏まえたうえで、慎重に人口推計を検討していく必要があるのではないか。
事務局	人口推計につきましては前回の審議会の際に人口ビジョンの変化ということで、説明をさせていただきました。その中では国立社会保障・人口問題研究所 (以下「社人研」という。) が発表した推計値に基づいて推計をしているところではありますが、委員お話しいただいたとおり、平成 27 年国勢調査の数値は震災の影響を受けたものということで、突発的要因を含んだ数値となっていることも否めません。しかし、社人研で公表している数値の根拠になる数値に関しては震災以前からの実績の推移も加味した上で公表されているものになりますので、正確性についてはだいぶ高いのではないかとと思われる。その中でも、前回会長からもご指摘いただいた出生率を若干高めに設定していることは否めないかもしれませんが、現在、市として持ち得る数字の中の一番正確性の高い数値ではないかと思っておりますので、ご理解い

	ただきたい。
委員	減ることには間違いないと思うので、そのあたりをよく検討したうえで公表していただきたい。
委員	44 ページふるさと応援寄附金の件数ですが、平成 30 年度の数値が「目標」となっているが、「現況」の誤りではないか。また 45 ページ宿泊農業体験学習受入数についても同じく平成 30 年度の数値が「目標」となっているが、こちらも「現況」の誤りではないか。
事務局	ご指摘いただいたとおりですので、修正いたします。
会長	事務局で検討いただいうえで若干の修正にはなるかと思いますが、これをもって審議会の「答申」とすることで、よろしいですか。 ご異議無いようなので、「答申」といたします。 それでは、議題 2 第二次登米市総合計画基本計画の検証（案）並びに見直し（原案）について事務局から説明を求める。
事務局	（配布資料 2 に基づき説明を行う）
委員	83 ページ、災害の件についてですが、商業の面で、震災後事業承継や継続をいかにするかということで、BCP（事業継続計画）について勉強した。今日の新聞によると東北においても約 8 割の市町村で計画を立てているようだが、登米市は計画を立てているか教えていただきたい。また、台風 19 号の際の自治体ごとの支援の格差ということでも新聞に取り上げられていた。財政難ということもあるのですが、登米市の支援策が他の自治体と比べるととても少ないと感じており、これで災害に強いまちづくりの推進といえるのかどうか、災害に弱い登米市になってしまうのではないかと心配している。
事務局	登米市においても防災体制の計画は様々ありますが、その計画が委員にお話しいただいた計画に合致するかどうかというところまでは確認できておりませんでした。台風被害の件につきましては、現在検証作業を進めているところで、次回の審議会までには、もう少し具体的な対策について説明できるのではないかと考えている。また、いただいたご意見については、担当課へも伝達する。
委員	計画もちろん大切だが、川の氾濫により登米市全域が浸水した場合なども想定して対策を講じていかなければならないのではないか。
委員	同じく災害のページについて、87 ページ施策 26 の⑧、武力攻撃等への災害に対応とあるが、具体的にはどのようなことを想定しているのか。 憲法第 9 条の絡みでこのような表現にせざるを得ないのかと思ったのだが、そこまで深い意味合いは無いのか。
事務局	Jアラート（全国瞬時警報システム）を想定した表現になるものとする。
委員	現在問題となっている、ある特定勢力の侵略などのことを指しているのか

	<p>と思ったので、確認させていただいた。</p>
委員	<p>以前にＪアラートが鳴った際、合同庁舎へ避難したが、警備員に止められたことがあった。Ｊアラートが導入されているのに、受け入れ態勢が整っていないことは問題ではないか。</p>
事務局	<p>具体的にとなるとＪアラートになるかとは思うが、地域防災計画の中に、こういったＪアラート関連の前提となる表現が含まれた中で登米市でも防災計画が立てられていますので、施策の中に盛り込まれているということでご理解いただきたい。</p>
会長	<p>同じく 87 ページ①の中に地域防災計画に基づきという計画名が記載されているが、計画名が記載されていることで、計画にあることしか実行しないのではと捉えられてしまうのではないかと。近年においては災害も激甚化してきており、常に検証をして、必要であれば見直しをしていくということが大切かと思うので、表現を工夫していただければいいのではないかと。</p>
委員	<p>166 ページの財政計画についてですが、登米市の財政が厳しいということが最近になってようやく一般市民にも浸透してきたように感じる。というのも、補助金や支援策等の一律カットや、経費削減が前面に押し出され、税金等、集めるものは集めるといった形になっている。一般市民もとても景気がいいとは言えないし、特に飲食業などは景気が悪化している中で自治体からの支援策や補助金等をカットされてしまうと、ますます景気の悪化に拍車がかかってしまうのではないかと懸念される。</p> <p>そのような状況の中で、この程度の行財政改革では甘いのではないかと。市長は何とか頑張っていくと話しているが、普通の家計と同じで、切羽詰まって破綻するのではないかと心配している。これから人口減少でますます税収も減少していくと予想されるので、市民の負担を増やすことのないよう、もう少し具体的に捉えていかなければならないのではないかと。</p>
事務局	<p>財政状況については、委員がお話されたとおりであり、総合計画の盛り込み方については、いただいたご意見を再度精査したい。総合計画自体は最上位の計画になるため、具体的な行政改革については現在策定を進めている、第四次登米市行政改革大綱、そしてそれに続く実施計画等に盛り込まれてくるのではないかと考える。表現の部分については、いただいた意見を含め、再度検討していきたい。</p>
委員	<p>これからはハード面での強化は難しくなると思われるので、住みたい田舎ランキングにおいて東北で第 2 位となった栗原市のようにソフト面での強化を図るべきではないかと。市民は熊谷市長が就任されてからの目玉事業が何も無いように感じているようなので、もう少し具体的に掘り下げた取組をしてもいいのではないかと。補助金等を一律カットすることも必要なことかもしれないが、やることはやる、やめるものはやめると、メリハリつけて進めていってもいいのではないかと。</p>
会長	<p>今のご意見については、前回の審議会においても、経費削減ということで護りに入るのではなく、地域を活性化して稼げるまちにしていくような攻めの戦略を検討していかなければならないというような意見もあったかと思</p>

	うので、そのあたりも含めて事務局の方で検討いただきたい。今の支出がしっかり活性化に結びついているのか、ひいては収税の拡大に結びついているのかということも検証しながら、戦略的に優先順位を決めて実施していくということが必要になってくるのではないかと。
委員	議員の皆さんの意見や見解はどのようになっているのか。
事務局	前回、総務企画常任委員会において、総合戦略の改訂と、総合計画の見直しについて、委員の皆様にお示したものと同一資料で説明をさせていただきました。時間的に短かったということもあり、人口ビジョンの変化について、いわゆる登米市の人口の将来的な見通しの入口の部分についてのご意見・質問を多くいただきました。総合計画については今月 28 日に開催される全員協議会でより多くのご指摘・ご意見・ご提案をいただくものと思っている。常任委員会の中では人口ビジョンについて意見が集中してしまったような内容でした。
委員	委員会での意見が無いとなると、全体においてはさらに意見が出ないのではないかとと思われるが、病院の問題や、災害対策についても意見は出なかったのか。
事務局	資料の事前配布が出来なかったこともあり、委員の方々がしっかり読み込むことが難しかったのではないかと考えており、意見は次回の全員協議会の場でというようなお話をいただいている。今回の全員協議会では資料を事前配布し、読み込んだうえで様々なご意見を頂戴するものと考えている。
委員	議員の皆様にもしっかりと議論をお願いしたい。
委員	29 ページ、個別政策 2 教育の充実の見直し後の「現況と課題」の中で今までも統廃合に関する話合いの場において、無理な統廃合や財政面からの問題だけで統廃合を行うべきではないと意見してきた立場からすると、「新たな再編計画による」という意見が削除されたことについては評価したいと思いますが、問題なのはコミュニティを守る、あるいはコミュニティ・スクールの導入などと、教育の再編・統廃合と相反することを行おうとしているわけで、そこをうまく進めていかないとせつかくのコミュニティ・スクールや地域コミュニティの崩壊に繋がりがねないのではないかと。これから必要なのは地域コミュニティをしっかりと守り、充実させていかなければ人口減少・高齢化の時代に対応できなくなるのではないかと。 登米市らしい人づくりをしていくには、やはり学校（教育）が大切だと思うので、効率化や適正化に囚われ過ぎず、登米市らしい規模で、地域を守り子どもたちを育てるといった観点で進めていただきたい。
委員	小学生や幼稚園児のような社会的弱者の環境について統廃合を進めるのではなく、まずは大人が不便を強いられてでも、分庁舎を廃止し、本庁舎に集約すべきではないかと。そのように考えている市民も多くいると思う。
事務局	学校再編については、教育委員会が主体となり議論を重ねながら、計画策定に取り組んでいる。学校再編にあたっては子どもたちのことを第一に進め

	<p>ていくべきと考えており、地域においては学校が地域のシンボル（心の拠り所）となっている部分もあり、一番大切な公共施設ではないかと考えられる。それらのバランスをとりながら計画を策定していかなければならない。ただ繰り返しにはなるが、複式学級が出来た場合などは、まずは子どもたちの教育環境を第一に考えていかなければならない。</p> <p>庁舎の関係については、財政的な問題などもあり、今のところは旧町時代の既存の庁舎を使用している。今後、様々な環境の変化が生じてきた際には、その時点で検討を深めていくことになるものとする。</p>
<p>委員</p>	<p>毎回お話をさせていただいていることですが、小学校というのは移住・定住において重要な要件だと考えている。現に加賀野地域は小学校がすぐ近くにあるから移住してきたというような話を毎日のように耳にしている。移住・定住を目指すということは小学校や、大きな商業施設などが必要ですが、なにも大型の店舗でなくてもいいので、地域の商店をまとめた街の駅のような施設を商工会の皆様と一緒に作り、移住・定住の目玉にしていくということも必要なのではないかと考える。</p> <p>都会で生活してきたシニア世代が宮城県に帰ってきたいという話になった際、登米市はバスの本数も少なく利便性が悪いということで結果的に交通の利便性の良い仙台市に定住してしまい、とても残念だった。</p> <p>やはり移住・定住を進めるのであれば、子育て世代には小学校、シニア世代には交通アクセス面での対応を考えていかなければならない。採算が合う合わないという話もあるかとは思いますが、そういった要望とどうリンクさせていくかということが大切だと考える。</p> <p>子どもを産んでもらうためには産婦人科医も含めた医療体制の充実が必要であり、そういった全体的なことをやっていかなければならないことも十分理解しているが、やはり何か目玉になるような施策も展開していかなければならない。そこが見えてこないのが非常に残念である。</p> <p>次に 177 ページ、重点戦略 I の出生者数について、下方修正するということですが、どういうところからこのような数値になったのか。</p> <p>魅力のあるまちづくりを進めていく中で、大切な子どもの数を見直しするということはどうしてなのか、教えていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>公共交通については、昨年度から加賀野地域内に市民バスが通っていないというお話をいただいております。今年、市全体の公共交通の再編計画を策定し、市全体の見直しを行った。計画の中では、加賀野・迫・南方というような中心市街地を循環する路線を盛り込んでおり、さらに利便性の高い公共交通にしていきたいと考えている。</p> <p>次に 177 ページ、出生者数についてですが、計画を策定した平成 26 年当時の出生者数は 600 人を若干下回る程度で推移しており、今後年平均 600 人ということで計画したところでしたが、その後は年々減少し、昨年の出生者数は 444 人となっている。そういったことから、より実態に即した中で計画の見直しを行うという趣旨で、下方修正したものである。</p> <p>移住・定住施策により、移住者は増えているが、進学や就職などによる転</p>

	<p>出者が多くなっており、人口の減少に繋がっている。人口を増やすということはなかなか難しいところではあるが、転出者の抑制により、減り幅を緩やかに出来るよう、施策を展開していきたいと考えている。</p>
委員	<p>お話いただいたことは理解出来るが、自然増と自然減の差し引きで減っていくから仕方がないということであれば、まったく意味の無いことで、若者をいかに移住・定住させていくかということを考えれば、自然増・自然減だけではなく、新たに子育てをする若者夫婦をこれくらい移住させたいといったような具体的な目標があれば、出生者数についてももう少し夢を持った数字を出せるのではないか。これからの登米市を背負っていく若者をどう呼び込んでいくのか、移住・定住させていくのかというところが今ひとつ見えてこない。</p> <p>人口減少が進んでいる中でも魅力のあるまちとして人気の高い栗原に負けないよう、みんなで知恵を出し合って魅力のあるまちづくりを推進していただきたい。</p>
委員	<p>委員が話したように魅力あるまちづくりが大切。栗原の場合は若者の定住、子育て、シニア対策、全ての面で総合的にまちづくりに取り組んでいる。人口減少は進んでいるが、栗原らしいまちづくりを進めている結果だと思う。若者世代が住みやすい、収入を得られる基盤整備も必要で、登米市ではそこがまだ足りないように感じる。</p>
委員	<p>登米市も住みたい田舎ランキングで初めて 10 位に入っており、ようやく今までの広報活動が実を結んだ結果だと思う。今回の結果を励みに、基盤整備をしつつ、登米市の良さをPRして、登米市らしい施策を展開していけば、目標を下方修正せずに済むのではないか。</p>
委員	<p>昔のように仲人がお世話をするような時代でもないのに、結婚できない若者が沢山いる。結婚だけが全てではないが、登米市の将来を見据えれば、一組でも多く結婚し、子育ても含めて登米市の将来を担っていただきたいと考え、計画に記載するかどうかは別として、世話焼き仲人のような積極的な出会いの場の提供など思い切った施策を展開していくことも必要ではないか。</p> <p>せっかく登米市の魅力が伝わり始めているのだから、もっと若者に集ってもらい、住みやすい・子育てしやすいまちだと認識してもらえれば、子どもの数も増加し、結果的に小学校の統廃合など様々な問題の解決に繋がっていくのではないだろうか。</p> <p>現実に即した数字に修正するというのも理解出来なくはないが、希望を持たなくてはならない出生者数について、下方修正するだけでは意味が無いのではないか。</p>
委員	<p>登米市は全てにおいて考えが後ろ向きであり、PR方法は上手とは言えない。多額の費用をかけるだけでなく、市民活動としてPRを行うほうが効果的なのではないか。</p> <p>このような計画などは文章と数字だけで分かりづらいところがあるので、市民にわかりやすく、認識されやすい計画にしていきたい。</p>

会 長	<p>登米市に限らず総合計画という枠組みの課題だと思いますが、基本計画の中に基本政策があり、基本政策ぐらいの大きさの中で目指すべきまちの姿を明確に打ち出す必要があると思う。しかし、行政としての考えからすると、基本政策をさらに個別政策というかたちで細切れにし、それぞれの担当部署において担当することとなる。加えて最近はKPIという数値目標も与えられているため、個別政策の数値目標達成だけに目が向けられがちであり、その数値目標達成は何のためなのかということ、実現するためには他部署との連携も必要だと思うが、その関係性が希薄になってしまっている。</p> <p>そこをしっかりと市民にも伝え、職員もきちんと理解した中で、自分たちがこの政策をどう動かしていかなければならないのかという意識を高めてもらう必要がある。</p>
委 員	<p>計画も大事ですが、やはり実践が伴わなければ意味がない。</p> <p>登米市では後手後手になることが多いので、計画したら即実践というようなスピード感を持った対応をお願いしたい。</p>
会 長	<p>実践する際には関係する部署がたくさん出てくるかと思うので、その関係する部署間でしっかり連携し、同じ方向を向いて取り組んでいくことが大切である。</p>
委 員	<p>いざ実践という段階で財政面の問題が発生してしまうのではないかとこの恐れもあるのでは。</p>
会 長	<p>議論していただいた内容を計画にどこまで反映出来るかはわかりませんが、そういう意識は共有し、今回の見直しには間に合わないかもしれませんが、次の計画に向けては、よりはっきり打出したような戦略的な計画が立てられればいいのではないかと。当然ながら、今回の見直しについてもそこを意識した中で、実行していくことが大切である。</p>
委 員	<p>現在は計画よりも世の中の動きが先行しており、計画が後追い状態になっていることが問題である。市政の計画は世の中の動きを予想して先取りしていけるようにしていただきたい。</p>
委 員	<p>たくさんの仲人を務めた人には自治功労のような功績賞を市長から差し上げるような思い切った事業を展開してみてもいいのではないかと。</p>
会 長	<p>なかなか細かい文面の修正というかたちでは難しいですが、議論いただいた内容を念頭に置き、反映させられる部分については反映し、議会全員協議会もありますので、それも踏まえて次回の審議会までに整理していくということと、今後細かい部分で気づいた点があれば、事務局へ連絡していただきたい。</p>
【4 その他】	
事務局	(今後の進め方について説明)
【5 閉 会】	

副会長	<p>本日は計画には無いような夢が膨らむご意見をいただき、私も活力をいただいた。文章に表現することは難しいが、登米市の目玉となるものを打ち出せるような施策でありたいと思う。</p> <p>何名かの委員さんからも登米市はマイナーであるというようなご意見がありましたが、私はお昼に流れる市民歌を聴くとマイナーな気持ちになる。</p> <p>すばらしい曲だとは思いますが、もう少しアップテンポの元気があふれるような曲を流していただきたい。</p> <p>また、公共施設のトイレの整備を進めていただきたい。トイレがきれいで、環境が整備されているとまた来たいと思えるようになるのではないかと期待している。</p> <p>オリンピックの開催により、少年野球の神宮大会が宮城県で開催されると聞いている。もしかすると登米市の球場でも開催され、訪れる方が増え、交流人口の増加に繋がるのではないかと期待している。</p> <p>自分の思いばかりを話してしまいましたが、本日は長時間にわたってのご議論、ありがとうございました。</p>
-----	--